

## ●くどう・やすこ

1974年東京生まれ。父親が秋田市出身、小学6年生～高校卒業まで秋田市在住。切文字作家・イラストレーター。球美主義(キュビズム)と称し、丸だけで絵を描いたり、文字を繋げて1枚の紙のまま切り抜く切文字を制作。表参道HKBギャラリーなどで個展・グループ展多数。2016年3月15日～3月20日までギャラリーDAZZLE(東京)にて切文字での個展「耳なし芳一」開催予定。

ブログ「球美主義」<http://marudarake.blog.fc2.com>

問い合わせ:givemechocolate@infoseek.jp

米と水と私  
学校到着後一時間我慢して休み時間にかぶりついたのが朝ご飯のおにぎり。昼までの授業を耐えてのお弁当、帰り道に当然のように買い食い、勿論しつかり晩ご飯、さらにリンゴやミカンなども食べ、それでも太らないという、新陳代謝激しい黄金の十代の大半を秋田で過ごしたのでした。秋田に住んでいた時期が食べ盛り

私の学生時代は今よりも畠や田んぼが多く、春夏は見晴らしの良い緑の中を、秋は黄金色に輝く稲穂の中を、冬はどこが道路か田んばかわからぬ真っ白な中を通学していました。

だつたこともあるのか、秋田を思うと食べ物のことばかり浮かびます。大きなハタハタの三五八漬け、ゴボウたっぷりの雑煮、叔母手作りのきりたんぽや野菜、山菜、細竹、リンゴ、ジュンサイ、とんぶり、ギバサ、さなづら、りんごもち、パパヘラ、だまこ餅…少し考えただけでも秋田の外ではなかなかお目にかかるない珍しい食べ物がたくさんあります。よだれが出ます。

その中でも私が特に好きだったのはお昼のお弁当のご飯です。そのころは炊き立てホカホカご飯よりも、

## 米と水と私



切文字作家・イラストレーター

## 工藤 慶子

弁当箱にビックリと詰められたご飯が好きでした。まず白いご飯を食べ、おかずでご飯を食べ、梅干しやつくだ煮でご飯を食べ、おかずにくつついていたご飯でご飯を食べ…。お弁当の醍醐味は箸が折れそうなほどギュウギュウに詰め込まれたご飯にあつたように思います。お弁当のご飯のやたらに結束した塊をジワジワと噛み締める感触は、他の食べ物にはない独特的の喜びでした。「冷飯」はわびしい物の例えとしてよく使われますが、お弁当のご飯が好きだったのは、いい香りで素直にお米の味がしたからだと思います。それはやはり水と土が良いという、米どころがしたからだと思います。それはやはり水と土が良いという、米どころではのぜいたくな味わいなのでしょう。実際、水道水がとても冷たくて美味しいので、帰省した時に水を飲むのも楽しみです。

飲む楽しみと言えば、そう、お酒です。米どころ酒どころで忘れてはいけない。大人になるのも悪くない、いや、むしろ良かつたと心から思える物、お酒。もとい。日本酒も秋田ならではの物がたくさんあります。キリッと辛口の冷酒からお燗してつい長時間飲みすぎてしまっても、たくさん種類がある上、美味しい物ばかり。でも関東では超有名な日本酒以外なかなか見掛けず、秋田の地酒を知っている人も圧倒的に少なく残念です。知られたら、絶対ファンがつくのに。



芥川龍之介「萩の中」より抜粋

それはお酒だけの話ではありません。秋田で有名なお菓子をお土産に渡して「珍しい」と言われ、全国区でないと知った時の悲しみ。「ああ、どうして? もつたいない!」その後、秋田のあれもこれも知らない、知らない物の多さに驚きました。でもこれまでいないことの多さや、そもそも正式名称なのか秋田弁なのか分からぬって、独自性があるというとてもいいことではないでしょうか?